

雲中供養菩薩が手にもつ楽器についての説明

鳳凰堂の壁にある阿弥陀仏の上に浮かぶ 52 体の菩薩の半数が楽器を演奏しています。楽器は様々です。菩薩南 21 号は竹製のハーモニカを演奏しています。北 24 号は両面革張りの太鼓をたたいています。北 12 号はドラを鳴らしています。北 2 号と北 16 号は、ユーラシア大陸に由来するリュートの一種である琵琶を弾いています。

琵琶 同様、阿弥陀堂の楽器の多くは日本古来の楽器ではなく、奈良時代（710 -794）に大陸の仏教文化とともに日本に伝来しました。外国起源の楽器の演奏スタイルは、続く平安時代（794 - 1184）には、日本の独自の方法で顕著に進化しました。貴族の藤原頼通が平安時代後期にこれらの彫像を注文した頃には、各楽器は日本の典礼の慣習に完全に統合されていました。現代の典礼では、平安時代の宮廷音楽の現在の演奏と同様に、依然としてこれらの楽器の多くが使用されています。